

《生活》 小学校生活への適応を促す

単元名 がっこうだいすき! -がっこうたんけん- (第1学年)

ねらい

- 友達や先生と親しくかかわったり, 学校探検で学校の施設を調べたりする活動を通して, 安全に気を付けて楽しく学校生活を送ることができる。
- 友達と楽しく遊びを工夫したり, 学校探検で発見したことや感じたことを絵や文などで表現したりすることができる。
- 学校にはいろいろな施設やきまりなどがあることや, 学校生活は多くの人々に支えられていることに気付くことができる。

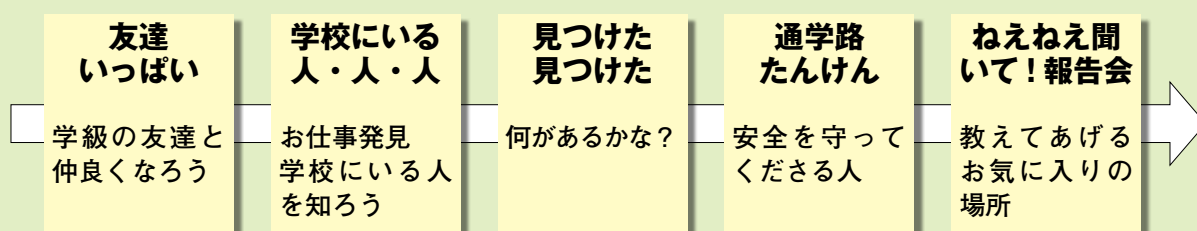
本実践とキャリア教育

本単元は, 生活科の内容 (1)「学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり, 楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに, 通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心を持ち, 安全な登下校ができるようにする。」を受け, 学校における身近な人々とのかわりを深めながら, 学校生活を豊かに広げ, 楽しく安心して遊びや生活ができるようにすることを目指しています。

小1 プロブレムなど, 学校生活への適応を図ることが難しい児童の実態を受け, 低学年では, 幼児教育の成果を踏まえ, 体験を重視しつつ, 小学校生活に適応すること, 基本的な生活習慣等を確立すること, 教科等の学習活動に円滑な接続を図ることなどが課題として指摘されています。生活科を核とした単元を構成したり, 他教科等においても生活科と関連する内容を取り扱ったりする合科的・関連的な指導の一層の指導の充実を図ることが大切です。生活科では, 初めての単元ともいえる本単元の果たす役割は大きいと考えます。学校生活において, 児童が親しみをもって接する人々を増やしたり, 自分の好きな場所を見付けたりして活動範囲を広げ, 自信をもって生活できるようにしていきましょう。また, 学校には, どんな人々がいてどんな仕事をしているのかを調べる活動を通して, いろいろな仕事があることや, たくさんの人々に支えられて生活していることに気付かせたいものです。このことが身の回りの様々な人々や仕事に目を向け, 人とかかわる力を高めていく契機となっていきます。

全体構想

がっこうだいすき! - がっこうたんけん-



活動を振り返って表現し, 伝え合いながら繰り返し探検活動を行う。

※教科, 道徳, 学級活動等との関連を図る

《本時のねらい》

あいさつをしたり、自己紹介をしたりしながら、学級のみならず友達になることができる。

《展開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見た重要なこと(◎) 評価(☆)	資料等
	友達いっぱい ―学級のともだちと仲良くなるうー		
導入	1 自分の好きなものを発表する。 ・イチゴやメロンがすきです。 ・かっこいい恐竜がすきだよ。 2 自己紹介カードをつくる。 ・名前を大きくかこう。 ・好きなものを絵で描こう。	◎好きなものならば何でもよいことを知らせ、児童がのびのびと発言できるようにする。 ○児童に分かりやすいように、名前や、好きな食べ物、マーク等を描いたお手本等を用意して説明する。	・自己紹介カードの見本 ・大きなカード、クレヨン等
展開	3 自己紹介カードを使ってゲームをする。 ※楽しい曲に合わせて歩き、音楽が止まったところで自己紹介をする。 ・ぼくは○○です。 ・好きなものは～です。 ・わたしは、□□です。 ・好きなものは～です。 ・よろしくね握手 ※音楽をならしながら、自己紹介を繰り返す。	○元気に歌ったり、歩いたりできるように児童に親しみのある曲を選ぶ。 ○机を移動し、広いスペースでのびのびと動けるようにする。 ○曲が止まったときに近くにいる児童同士で自己紹介ができるよう見守る。 ・控えめな児童や、なかなか言い出せない児童には、寄り添いながら共に活動する。	・児童に親しみのある音楽 ex.アニメソング、1年生になったら、ドキドキドン1年生、校歌など
まとめ	4 楽しかったことを発表する。 ・○○さんと好きなものが同じでうれしかった。 ・たくさん握手をして楽しかった。 5 次は、「学校中のいろいろな人々と仲良し」になることを知る。	◎新しい発見や楽しかったことを紹介して、仲良くなれた喜びが味わえるようにする。 ☆楽しく活動し、友達と仲良くしていこうとする気持ちをもつ。 ◎次は「自己紹介やあくしゅ大作戦」を学校中の人々へと広げることを伝え、意欲を高める。	・学校の絵地図や部屋の写真等

実践のポイント

学校全体の協力体制を整えておきましょう

学校探検に取り組むに当たっては、学校全体で共通理解を図り、教職員や上級生から積極的に話しかけるなどの協力が得られるようにしておきましょう。

学びの対象の広がりを意識しましょう

学級→学校→通学路→学校の周り→地域へと学びの対象や活動を広げていく大きな流れを意識して実践しましょう。

児童の実態に応じて柔軟な展開を工夫しましょう

- ・生活科を核として各教科等と合科的・関連的な指導を図る単元を構成し（ex.歌ったり踊ったりする、好きな絵を描く、道徳4(4)愛校心や学級活動等と関連付ける）、具体的な体験や活動を通して楽しく展開していくことが大切です。
- ・1単位時間を45分ではなく、15分くらいの活動のまとまりをつくり、児童の様子を見ながら活動意欲を持続させていくことが大切です。

《道徳》 道徳の時間を核として「自尊感情」を育てる

主題名 たいせつな じぶん3-(1) (第1学年)

資料名

はじめてのプレゼント(自作資料)

ねらい

自分の命はかけがいのないものであると感じ、大切にしようとする心をもつ。

本実践とキャリア教育

自分が、かけがえのないたった一人の人間であり、この世に生を受けたときから多くの人間が、見守り、愛し、慈しんでくれていると知ることは、これからの自分の生きるエネルギーとなり、大きな支えとなっていくにちがいありません。小学校低学年のこの時期に、大切な自分の存在を実感し、自信をもつことは、将来に夢を描き希望をもって明るく生きていこうという前向きな姿につながります。本実践は、児童が自分に向けられた思いを感じながら、『自分を好き』『自分は愛されている』『自分にはかけがえのない存在である』という実感のもとに、よりよく生きていく自分の姿を、低学年なりに描かせていきたいと考えました。

キャリア教育として、生命尊重意識と人間関係形成にかかわる発達の課題を意識し、主として自己理解能力やコミュニケーション能力などを育てていくことに主眼をおいています。

全体構想

〈国語科〉
「ほくわたしの好きなことは」
・自分の気持ちをわかりやすく話す。
「めいしでじこしようかい」
・自分の意見や気持ちをわかりやすくみんなに話す。「おてがみをかこう」
・感謝の気持ちを表す

〈道徳の時間〉(3時間)
「おかあさんのなみだ」4-(3)
・自分を支えている家族の存在を知り、感謝する。

「たいせつな じぶん」3-(1)
〈本時〉
・自分の誕生を周囲の人々が待ち望み、生き方の願いをこめて名前が贈られていることを知る。生きることを喜び、命を大切にしようとする。

「いのちはたからもの」3-(1)
・かけがえのないただ一人の自分に気づき将来への夢をもつ。自分とともに、周りの人も大切にしようとする。

〈生活科〉
「あくしゅ大作戦」
・身近な人々に関心を持ち、積極的にかかわる。
「願いをこめて」
・自分の夢を自由に描く。
「名人をめざして」
・自分の生活を支えてくれている人に感謝する。身近な人々の様子がわかり、興味・関心をもつ。
「わたしのじまん」
・自分のよいところを見付ける。


〈学級活動〉
「たのしいなつやすみ」
・自分の好きなもの、大切なものを持ち、よいと思うことに進んで取り組む。
「わたしは、だれでしょう」
・友達のよいところを見付け、励ましあったり、助け合ったりする。
「クラスの友だちありがとう」
・友達の気持ちや考えを理解しようとする。

心のノート

《本時のねらい》

自分の命はかけがえのないものであると感じ、大切にしようとする心情を育てる。

《展開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見た重要なこと(◎) 評価(☆)	資料等
導入	1 「はじめてのプレゼント」の話を聞いて、気付いたことや、思ったことを発表する。 (1) 拓人君が泣きじゃくる場面まで ・かわいそうだから、名前を変えてあげればいいのに。 ・人の名前を悪口いうのはいけない。 (2) お父さんの話を聞いて。 ・いやだと思っていたけど、本当はいい名前でもかったね。	*自作資料「はじめてのプレゼント」 (p.176 参照) ○自分の名前を悪くいわれて泣きじゃくる拓人君の気持ちに共感できるようにしていく。	場面絵
展開	2 自分の名前にこめられた家の人の思いを知る。(手紙を読む) ・自分の名前にも素敵な理由があってうれしい。 ・みんなで、自分が生まれたことを喜んでくれていい気持ち。 ・友達の名前にも大切な気持ちがこめられているから、からかったり変な呼び方で呼んだりしてはいけない。	○あらかじめ、家庭へはねらいを伝え、児童へあてた手紙を書いてもらっておく。 ☆名前には、家の人の思いや願いがこめられていることに気付き、大切にしなければならない自分の価値を知る。	保護者の手紙
まとめ	3 家の人に、手紙を書く。 ・素敵な名前をつけてくれてありがとう。 ・名前のような人になるようにがんばるね。 ・大事にしてくれてありがとう。	 ◎自分が多くの人の思いに支えられて生きていることを喜び、よりよく生きようと感じることができるようにする。	お礼の手紙

実践のポイント

自分が周囲の人から大切に见守られていることを知り、自己有用感を感じることができ、夢をもって明るく生きていこうと考えさせることができます。

各教科等の関連を考えて構想しましょう

道徳の時間を中核に据えて、「自分づくり」「いのち」「感謝」などをキーワードとして、生活科、国語科、学級活動などの教科等との関連を図ることも考えられます。

キャリア教育としての価値やねらいを伝え、家庭と連携しましょう

事前に本実践のねらいを保護者に説明し、児童一人一人に我が子の名前への思いや願い、成長を見守る心を自筆の手紙に託してもらいます。手紙を読む児童の表情は幸せに満ちており、自尊感情を育てるのに大切な活動です。

(p.176に自作資料を掲載しています。)

《特別活動・学級活動》 身のまわりの仕事への関心・意欲

議題名 「かかりのおしごと発表会」の計画を立てよう(第1・2学年)

ねらい

係活動や集会活動を通して、自分の役割に気付き、進んで果たそうとするとともに、仲良く助け合い、学級生活を楽しむ。

本実践とキャリア教育

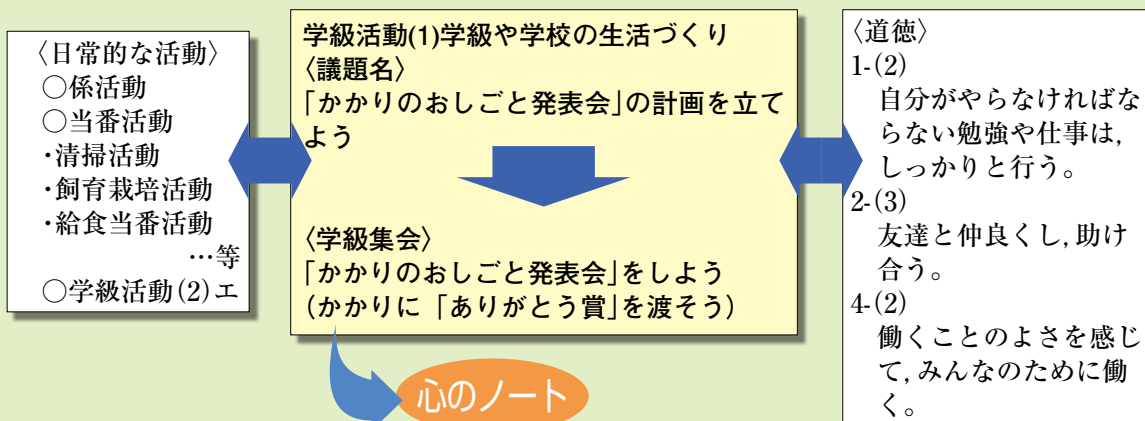
日々の学校生活における清掃をはじめ当番活動など特別活動における実践的な活動は、キャリア教育と深い関係があります。低学年のうちから所属する集団やみんなのために一生懸命働いたり、責任を果たしたりする経験を積み重ね、その大切さや意義を理解させていくことは、望ましい勤労観・職業観を育て、社会性の育成を図ることにつながります。特別活動の特質を大いに生かして、働くことに関する意欲や態度を育てることが大切です。

低学年の係活動は、どのような仕事が学級生活に必要なかを発見させることから始まります。その仕事の内容が当番的であったり、簡単なものであったりしても構いません。経験を積み重ねるにしたがって、創意工夫が生かされ、協力して取り組めるような活動を増やしていくようにしていきます。教師が中心となって共に活動し、仲良く助け合い、学級生活を楽しむ係活動として発展させていきましょう。何でもやってみたい時期、好奇心旺盛なこの時期に、係の仕事を互いに発表し合い、友達の創意工夫やよさに気付かせるとともに、自分も「取り組んでみよう」、「工夫してみよう」という意欲を高めます。また、学級集会活動では、簡単な役割や準備をみんなで分担して仲良く取り組み、活動を楽しむことができるようにしましょう。

さらに、今回の改訂で新しく加わった学級活動(2)エや道徳の時間との関連を図りながら、与えられた役割を果たすというだけの消極的な活動ではなく、進んで取り組み、学級や学校に貢献していることを実感できるようにしていくことが大切です。



全体構想



を高める

《本時のねらい》

自分たちの係のことをどのように紹介し合うかを話し合い、「かかりのおしごと発表会」の計画を立てることができる。

《展開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見た重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 はじめの言葉 2 議題・めあての確認	○教師と一緒に進行する。
	「かかりのおしごと発表会」でどんなことを発表し合ったらよいか決めよう	
展開	3 提案理由の説明	◎提案者の児童と共に考えながら提案理由を明確にする。
	4 話し合い (1)「かかりのおしごと発表会」でどんなことを発表するか話し合う。 ・「遊び&ゲーム」係 仕事の内容がよく分かるように、自分たちが考えたゲームをみんなで試してみたい。 ・「本をよもよも」係 私たちの頑張っている「お勧め本の読み聞かせ」を紹介したい。 ・「ニュース特ダネ」係 クラスのクイズをつくるために、みんなへのお願いをしよう。…等 (2)「かかりさんありがとうカード」の内容や渡し方を話し合う。 ・係への感謝の言葉 ・その係のよいところ (3)集会に向けての準備や役割分担について話し合う。	○仕事の内容や頑張っていること、大変なこと、うれしいこと、みんなへのお願い、じまんなど、どんなことを発表するか、自分の考えをもって話し合いに臨めるようにしておく。 ○児童が自信をもって発表できるように、相談にのったり、励ましたりアドバイスをしたりする。 ◎それぞれの係にカードを渡したり感想を述べ合ったりすることにより、互いのよさを認め合い、自分の取組への自信を深め、実践意欲が高まるようにする。また、どの係も学級のみんなのことを考えて活動していることに気付かせる。 ◎準備や役割分担について、児童と共に考えるようにする。その際、集会をみんなで協力して行うために全員が役割を担当できるよう助言し、一つ一つが大切な役割であることに気付くようにさせる。 ☆自分たちの係の取組を発表する内容を考え、話し合うことを通して、係活動の大切さに気づき、実践意欲を高める。
まとめ	5 決まったことの発表 6 話し合いの振り返りと教師の話 7 おわりの言葉	○話し合いでよかった点、深まった点を褒める。 ◎それぞれの役割が、学級のみんなの役に立ち、楽しい学級づくりのために大切な活動であることを伝え、学級集会へ向けての実践意欲を高める。

話し合いで決まったことの実現に向け、「かかりのおしごと発表会」に向けて準備を進める。

実践のポイント

自分たちで役割を分担させながら楽しい経験を積み重ねていきましょう

低学年においては、「学校は楽しい」ということが実感できるように、教師が主導して楽しい集会活動の経験を積み重ねることが大切です。児童の総意によって、集会の内容やプログラム、役割分担などを行い、仲良く取り組めるようにしましょう。

活動しやすい環境を児童と共につくっていきましょう

児童が様々な経験を積み重ねながら自らの役割を増やしていくことが大切です。「係コーナー」や朝の会、帰りの会等を利用した「振り返りタイム」などの時間を設け、活動しやすい環境を児童と共につくっていきましょう。

《生活》 地域で働く人に関心を持ち,自分で考え行動する

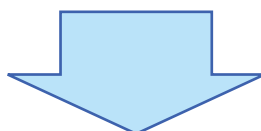
単元名 だいすき わたしたちのまち (第2学年)

ねらい

自分たちの住む町には素敵な場所,楽しいことがたくさんあり,多くの人が働いていることに気付く。

本実践とキャリア教育

自分が住む町をもっとよく知り,大好きになるために児童は町にとびだしていきます。町探検では知りたいことを進んで見たり聞いたりし,途中で起こる様々な問題も自分たちで解決しながら多くのことを学ぶことができるはずです。また,様々な体験を重ねていく中で児童は,地域で働く人々や職業へ興味関心をもつとともに見学のマナーや言葉遣いなどへの気配りもできるようになります。広がった世界で周囲の人とうまくコミュニケーションが取れるようになり,児童自身の職業への興味関心を深めることができます。このように低学年なりに働く人の生き方や仕事への理解へとつながる学習を,意図的にできるように工夫しました。



全体構想

〈国語科〉
「紹介しよう」
・相手を意識して,どんな紹介の仕方をしたらよいか考え,工夫して伝える。
「話合いのあいうえお」(対話)
・話したり聞いたりするとき大切なことを知る。

〈生活科〉(15時間)
「大すきわたしのまち」
・自分の住む町のいいところを発表する。
・探検の計画を立てる。
・町探検をして自分たちが知らなかった町の素敵なおところを見つけてくる(本時)
・調べてきたことを友達や1年生に伝えるための準備する。
・町の素敵なおところをみんな(1年生)に伝える。

〈道徳〉4-(1)
・公共の場での礼儀やマナーの大切さを知る。

〈学級活動〉
「力を合わせて」
・グループで行動するときは自分の役割をきちんと果たし,みんなと協力し合う。

力を育てる

《本時のねらい》

- ・グループの仲間と協力しながら、積極的に活動しようとする。
- ・自分の住む町の素敵なところを諸感覚を通して見つけることができる。
- ・マナーに気を付け、町の人たちとかかわりをもてるようにする。
- ・いろいろな職業があることに気付く。

《展開》(10・11/15時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見た重要なこと(◎) 評価(☆)	資料等
導入	1 出発式をする。(実行委員) ・めあての確認をする。	○実行委員児童がリーダーシップをとって進められるようにする。	探検バッグ
	まちのすてきなところをたくさん見つけてこよう!		
展開	2 グループごとに出発する。 3 グループごとに見学やインタビューを開始する。 <○△ビル> ・建物の中で働いている人ってどんな仕事をしているのかな。 <大型スーパー> ・一番売れているものって何かな。 <ホテル○△> ・靴に泥がついてないか、気をつけなくちゃ。 ・どんなレストランがあるかな。 <他の小中学校・学童ルーム> ・中学校ってどんな教室かな。 <お店屋さん①②> ・どんなものがおいてあるかな。 ・ケーキを作るところが見たいな。	○公共の場でのマナーや挨拶、迷ったときの対処の仕方、安全などについて確認する。 ○あらかじめ巨大地図で、歩く道順を確認できるようにしておき、児童にも、一人一人簡単な地図を持たせて、確かめながら歩けるようにしておく。 ◎自分たちの町の様子や町で働く人々に興味をもち、仕事をしている様子を意欲的に見学することができる。 ○万一、道に迷ったときは、近くの人や歩いている人に尋ねられようようにしておく。 ☆見学のしかたや言葉遣いなどのマナーに気を付けて、自分たちで考えて行動できる。 ○分かったことや見付けたことを記録するよう声をかける。	ワークシート(デジカメ) 地図 約束やマナーの確認シート
	まとめ	4 グループごとにお礼のあいさつをして学校へ帰る。 ・働く人はみんな一生懸命だったね。	○安全に気を付けて帰ることができる。 ◎真剣に働く人々の姿から、働くこと(仕事)の楽しさ、苦勞などを感じる

実践のポイント

各教科等の関連を考えて単元を構想しましょう

単元は、生活科を核として国語、道徳を関連させながら構成しています。このように、分化されているものを統合して大単元として構想することで、児童の思いや願いの実現に向けたダイナミックな活動が実践できます。

町探検では、自ら思考し、選択し自分の力で問題解決にのぞみます

- ・町探検という体験の中で、児童は自分で選択し決定する場面がたくさんあります。また身近な環境の中での働く人々との出会いを通して職業理解への扉が開かれ、低学年なりの理解を図ることができます。ここで、キャリア教育の視点から意思決定能力、将来設計能力をはぐくむことができます。
- ・児童個々の願いを実現するために、自分の思いや考えをはっきりさせたり、相手を意識した話し方を学んだり、コミュニケーション能力を高めることにも適しています。
- ・自分たちで計画し行動することで、目的をしっかりとらせることができ、また、思わぬできごとに、自分たちで判断して行動する経験が、児童一人一人のたくましく生きるための自信となります。

《道徳》 道徳の時間を核として「自分の役割の大切さ」を

主題名 がんばっているわたしのしごと1-(2) (第2学年)

資料名

おふろばそうじ (出典「読み物資料とその利用」主として自分自身に関すること 文部省平成3年3月)

ねらい

自分がやらなければならない仕事は、しっかりと行おうとする心情を育てる。

本実践とキャリア教育

児童が自立し、よりよく生きていくためには、自分がやらなければならないことはしっかりとやり抜くことが大切です。より高い目標を立てたり、自分の夢や希望を掲げたりして、勇気をもって取り組もうとする態度を養いたいものです。

児童は、家庭や学級において、様々な役割を期待されたり行ったりすることによって、集団の一員としての意識をもち、かかわりを深めていきます。親や教師の励ましや賞賛、助言などの下に、この時期の基本的な課題である「勉強や自分のなすべき仕事を、自分でやるべきこととしてしっかり行う」ことができるよう指導していくことが大切です。道徳の時間や生活科「めざせ!お手伝い名人」、係活動や当番活動など、日常活動との関連を図りながら、やり遂げたときの喜びや充実感を味わい、がんばることができた自分に気付くことができるようにしましょう。働くことで役に立つうれしさ、やりがい、自分の成長などを感じ取れるようにし、実践意欲の向上に結び付けていくことが大切です。

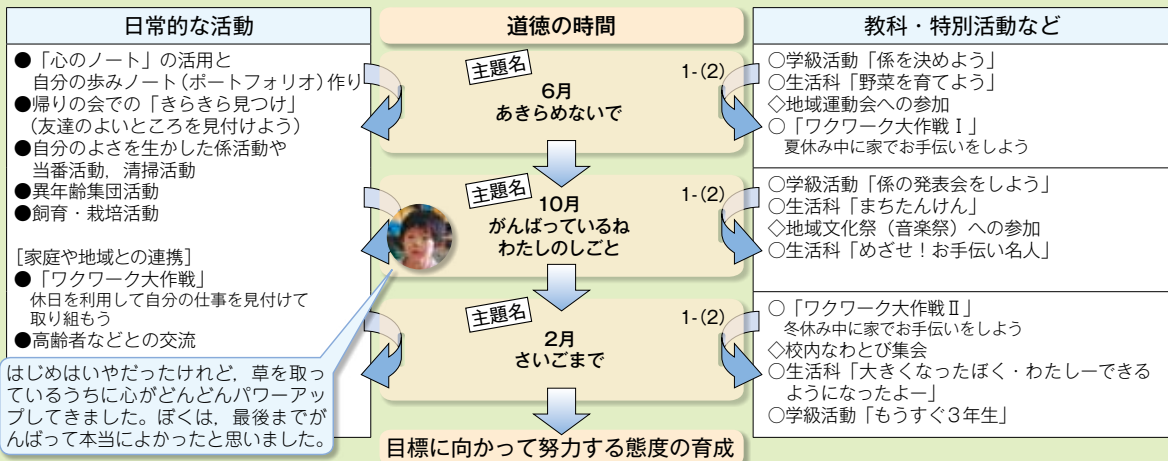
児童は、日常の生活の中で働く様々な体験をしています。その中で、道徳的価値に触れ、感じ、考え、心を動かしているのです。道徳の時間には、これらの体験の中での心の動きとその時間における指導とが響き合うようにしていくことが大切です。児童が自らの体験を生かして自分を見つめ、道徳的価値のもつ意味や大切さについて深く考えることができるようにしましょう。道徳の時間を要として、全教育活動を有機的に結び付けながら、年間を通して意図的・計画的・継続的に児童のキャリア発達を促していくことが大切です。



全体構想

▶ 道徳の時間を要とした総合的な取組例(2年生)

ねらい ●自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う 1-(2)



ポイント

- 豊かな体験活動との関連を図りながら、体験を振り返ることができるようにしましょう
- 各教科等との関連を図りながら、道徳の時間を積み重ねましょう

自覚させる

《本時のねらい》

自分がやらなければならない勉強や仕事は、最後までやり遂げようとする態度を養う。

《展開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見た重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 学校や家での仕事について発表する。	○生活科の学習や係活動と関連させ、働いている様子の写真等を提示し、自分の取り組んでいる仕事を思い起こしやすいようにする。
展開	2 資料「おふろばそうじ」を読んで話し合う。 ○うれしくてたまらなくなったあきは、どんなことを考えたでしょう。 ・もっとがんばるぞ。 ・これからもずっと続けるぞ。 ・みんなが喜んでくれてうれしい。 ○「あきらならでできる」と頭をなでられたとき、あきはどんな気持ちになったでしょう。 ・途中でやめないでよかったな。 ・仕事も勉強もみんながんばるよ。 ・自分の心をパワーアップしていくことが大切なんだな。	○資料の内容が理解しやすいように場面絵カード等を提示する。 ○一人一人の感じ方や考え方が生かされるように、書く活動やグループでの話し合い、意図的指名などを取り入れる。 ◎日常の実践的な活動や体験的な活動と資料の主人公の行動とを重ね合わせ、資料に共感しながら、自分の気持ちを述べ合えるように、表情の絵や補助発問、吹き出しカード等を工夫する。
まとめ	3 あきらと同じように、自分の仕事をがんばったことがありますか。そのときどんな気持ちでしたか。 ・係活動や、飼育当番、勉強、どれもがんばっている。 ・嫌なときもあるけれど、最後まで花壇作業をがんばったときは気持ちがよかった。 ・生活科の「お手伝い大作戦」で窓ふきをがんばった。工夫してふいてぴかぴかになったときはとてもうれしかった。 4 メッセージカードを読む。	◎事前に日常生活の中での児童の様子を把握しておき、意図的指名をして、考えさせたり、励ましたりする。 ☆自分の役割の大切さが分かり、努力していこうとする意欲を高めているか。 ◎事前に、家族や上級生、教員等から、本時のねらいに即して、それぞれの児童ががんばっている姿についてのメッセージをもらっておく。 ◎一人一人の姿を認め、励まし、自己肯定感を高めて今後への意欲が高まるようにする。

実践のポイント

児童を認め励ましなが、継続的な指導をしていきましょう

「心のノート」を活用し、実践的な活動場面での児童の様子をとらえ、認めたり励ましたりして継続的に指導していきましょう。

キャリア教育としての価値やねらいを伝え、家庭と連携しましょう

「学級便り」や「道徳便り」「心のノート」「連絡帳」等で児童の姿を伝え合い、家庭と連携を図っていくことが大切です。

《道徳》 みんなのために働く喜びをはぐくむ

主題名 働く楽しさ4-(2)(第2学年)

資料名

のぶくんはポスターがかり (出典「2年生のどうとく」文溪堂)

ねらい

働くことのよさを感じ、みんなのために働こうとする心情を育てる。

本実践とキャリア教育

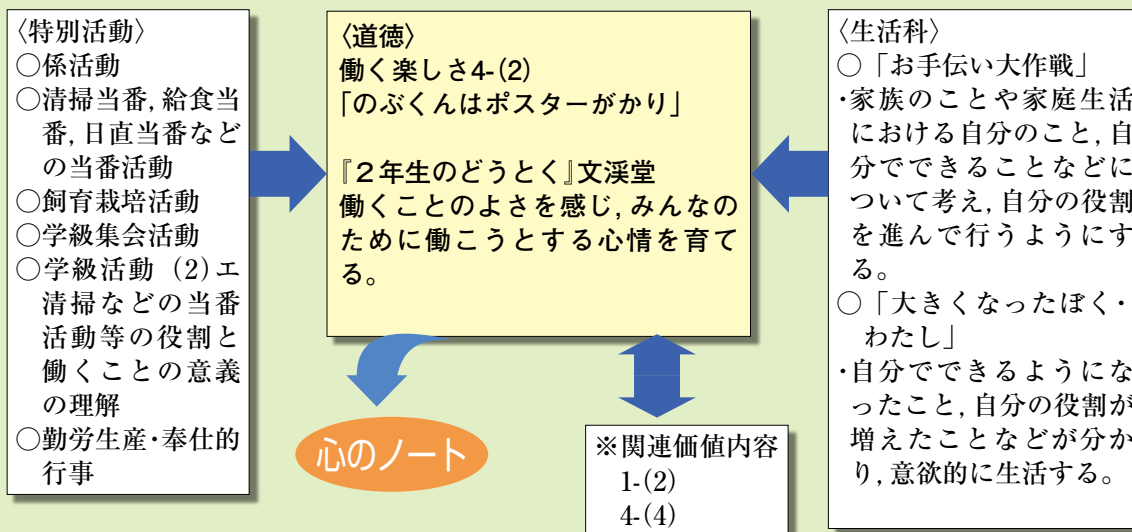
今回の学習指導要領改訂で、第1・2学年の道徳の内容項目に「働くことのよさを感じて、みんなのために働く」4-(2)が新たに加えられました。小学校低学年からの継続した勤労観・職業観の育成を目指したキャリア教育と大変関連が深い内容です。身近な集団の役に立つために働くという社会参画への意識を育てていきたいものです。

低学年では、みんなのために働くことを楽しく感じている児童が多くいます。その実態を生かし、働くことで役に立つうれしさ、やりがい、自分の成長などを感じ取れるようにしましょう。

道徳の時間はもちろんのこと、全教育活動で「勤労」についての価値の自覚を図り、毎日の清掃や給食などの当番活動、家庭や地域での決められた仕事など、実際の場での意欲や態度に結び付くようにしていくことが大切です。道徳の時間を要として、全教育活動を有機的に関連させながら、年間を通して意図的・計画的・継続的に取り組んでいきたいものです。この内容は、中学年「働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く」4-(2)、高学年「働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする」4-(4)に発展していきます。



全体構想



《本時のねらい》

働くことのよさを感じ、みんなのために働こうとする心情を育てる。

《展開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見た重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 学校や家での仕事について発表する。 ・家で玄関掃除をしているよ。 ・生き物係で虫のお世話をがんばっているよ。	○働いていることの写真を提示したり、生活科の学習と関連させたりして自分の取り組んでいる仕事を思い起こし、ねらいとする価値への方向付けをする。
展開	2 資料「のぶくんはポスターがかり」を読んで話し合う。 (1) ポスター係になったとき、のぶ君はどんな気持ちでしたか。 ・なんとなくやってみようと思った。 ・はじめはがんばろうと思っていた。 (2) まさとくんに「楽しみにしている」と言われたとき、のぶ君はどんな気持ちでしたか。 ・ほくのかいたポスターを楽しみにしていてくれたなんてうれしいな。 ・ポスターをかくことを忘れていて悪かったな。 (3) カマキリのポスターを笑顔で眺めていたのぶ君はどんなことを思っていたでしょう。 ・みんなが喜んでくれてうれしいな。 ・これからもポスター係をがんばるぞ。	○場面絵カードなどを使って、資料の内容をつかみやすいよう絵カード等を提示する。 ○ポスターを見るまさと君の残念そうな様子の表情を掲示することにより、主人公の気持ちを考えやすくする。 ○主人公のかいたポスターを見て喜ぶみんなの様子を押さえ、主人公の心情をとらえやすくする。また、吹き出しカード等を工夫して、みんなに喜んでもらった主人公の気持ちに共感できるようにする。
まとめ	3 のぶくんと同じように、自分の仕事をし、みんなの役に立ってよかったなと思ったことはありますか。 ・お楽しみ係の考えたゲームで、みんなが喜んでくれたときうれしかった。 ・飼育当番で、「ありがとう」と言われてやってよかったと思った。 ・生活科の「お手伝い大作戦」で窓ふきをがんばった。お母さんが喜んでくれてほくもうれしくなった。 4 がんばって仕事に取り組んでいる自分たちの写真を見たり、自分たちへのメッセージを聞いたりする。	○日常の体験活動と資料の主人公の行動とを重ね合わせ、資料に共感しながら、自分の気持ちを述べるようにする。 ◎事前に日常生活の中での児童の様子を把握しておき、意図的に指名をしたり、写真等を紹介したりして、自己有用感を高め、みんなのために働くことのよさが実感できるようにする。 ☆働くことのよさを感じ、これからもみんなのために働こうとする意欲を高めているか。 ◎事前に、家族や上級生、教員等から、メッセージカードをもらっておき、家族や上級生等が喜んでいる姿を児童に知らせ自信をもたせる。また、がんばって働いている児童の写真を提示し、意欲が高まるような話をする。

実践のポイント

実際の場での意欲や態度に結び付けましょう

「心のノート」等を活用し、係活動や当番活動、家庭での仕事など、日常の活動場面での児童の様子をとらえ、認めたり励ましたりして継続的に指導していきましょう。

キャリア教育としての価値やねらいを伝え、家庭と連携しましょう

「学級便り」や「心のノート」「連絡帳」等で児童の姿を伝え合い、家庭と連携を図っていくことが大切です。